



認定NPO法人シャブラニール=市民による海外協力の会のスタッフに、現地での活動の様子を聞く筆者(右から2人目)

人生をハチャメチャで面白い物語にしたいなら、バングラデシュに行けばいい。2年前、国際協力の現場をレポートする仕事で初めてバングラデシュを訪れ、私は一瞬でこの国のことが大好きになった。

タレントという仕事をしているわりに、根は人見知りの私。でも、バングラデシュの人たちにはバインと心の扉を開けてもらった。とにかく人が大好きなベンガル人。出会ってすぐに質問攻めにあい、なかなか眠らせてくれなかった。出会ったばかりの私のおじいちゃんの名前まで知りたいなんて。彼らの熱くて真つすぐな視線に、私の心の人見知り氷山がみるみる溶けていくのが分かった。

そんなわけでベンガル語もするする覚え、1週間強の滞在でなんとなくコミュニケーションが取れるほどに。お世話になったNGOの日本人スタッフの方々は「ものすごい社交性だね!」と褒めていただいたが、あれは私の実力ではない。バングラマジックだ。自分でもこんなに積極的な

「ワタシ」を見つけたのは初めてで驚いたほどだ。「自分探し」という言葉が死語になり、現実逃避して海外でふらふらする若者、みたいなマイナスイメージとセットで語られる雰囲気の中で生きてきた自分探しなんてないよ世代。でも、ここへ来て「自分探しはある!」と思った。私の知らない私がバングラデシュにいたからだ。

到着してからずっとノリノリだった私も、スラムを案内してもらった時は少し緊張した。最貧国といわれる国の、さらに最貧層の人々の暮らし。東京でぬくぬくと、自分のことであらうじうじ悩みながら暮らしている私なんか、どんなふうにもそこを歩けばいいのか全く分からなかった。「やっぱ自分は恵まれてると思った」みたいな感じに、貧困を観光として消費してしまうのも嫌だったし、かといって、特別正義感が強いわけでもなく、世界を救いたいと思ったことも正直ない私が、「何かしてあげなきゃ」という気持ちになれるのかどうか、なる必要があるのかどうか、ということも

Voice

18

途上国で知らない自分に出会った

タレント
藤岡みなみ

疑問だった。

しかし、NGOのベテランスタッフの女性が「スラムはおもちや箱をひっくり返したような、とっても楽しいところですよ」と教えてくれ、目からうろこが落ちた。「楽しんでいいんだ!」と。開発途上国に行ったら胸を痛めなければならぬ、助けてあげたいと思わなければいけない、という私の思い込みの方がむしろ差別的な考えだったのかもしれない。

実際スラムは本当におもちや箱みたいな場所だった。狭く複雑に入り組んで迷路のような路地が面白く、そこを歩いているだけでみんなが店や家から出てきて、歌いながら付いて来る。家事使用人の子どもたちが通う補習学校では、マッコデラックスさんみたいな先生がアコデオンドルガンを弾き、歌いながら教えている。「ミュージカルか?!!」と何度も突っ込みたくなるほど、陽気にあふれていて、ただでさえカラフルなバングラデシュがもっと濃縮されたような明るい場所だった。

スラムを楽しく歩いたことで、見えてきたものがある。援助する側、される側、という人間関係は国際協力の現場には必要ない。現場には、国と国、個人と個人、個人と個人、あるのは個人、ひたすら個人。何かしてあげようと思わなくていい。出会うだけでいい。出会えば巻き込まれるようにして何か



元セックスワーカーの女性たちが作るナチュラルソープ



[左]緊張していたスラムでの取材。いつの間にか、周りは人々の笑顔であふれていた
[右]「ヘナ」の葉を使ったボディペイントに挑戦

が始まる。国際協力の仕事をされている方々にたくさんお話を聞かせていただいたが、皆さんそれぞれ必ず面白いストーリーを持っていて、うらやましかった。そして自分らしく生きている人ばかり。若い世代が国際協力で興味を持つということは、面白い大人にたくさん出会えるということでもあるかもしれない。

タレントとして、私がどう国際協力に関わっていくのが良いのか考えた。自分にもあった「国際

協力は立派な人がするものだ、自分には関係ない」という壁を持っている人に、「見てきたらそんなことなかった!おもしろい!」と伝える役割なのかな、と今は思う。

国際協力や世界旅行に興味があるけれど、まだ一歩を踏み出せていないという人がいたら、パッケージツアーよりも個人旅行よりも、信頼できるNGOの企画するスタディーツアーに参加してはどうだろうか。場所ではなく人をテーマにした充実した旅になるように思う。

<Profile>

ふじおか・みなみ

1988年東京都出身。東京都立国際高等学校、上智大学総合人間科学部社会学科卒業後、タレント・歌手として活動。ジャイアントパンダ研究者。2010年より「穴場ハンター」、2014年は「テレビで中国語」(共にNHK)レギュラー出演。公益財団法人緑の地球防衛基金のプロジェクト「Team Shokurin」SHOKURIN応援団。著書に「シャブラニール 人生を変える働き方」(エスレ)。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

写真:渋谷教志